

サントリーの人材戦略②飛騨の町での販路開拓・人材育成で、豊かな経験を社会に還元

■ 飛騨市役所に出向中の
上田俊二さんとは

先月号で紹介した「内閣府地方創生人材支援制度」のスキームを使って、サントリーホールディングスの上田俊二さんが岐阜県最北に位置する飛騨市役所に出向したのが2022年4月のこと。

北アルプスの山々に囲まれ、清らかな川が白壁土蔵の町中を流れる環境に、上田さんは心を弾ませて赴任したそうです。

上田さんは、サントリーに入社以降、ワインの営業や、輸入ウイスキーのブランディングを担当し、得意の英語を活かして海外事業部門でも豊富なキャリアを歩んで来られました。50代以降は、人材育成を手掛け、製造現場での様々な課題に間近で取り組む中で、人の能力を引き出すことや自律型人材の育成、管理職のサポートに力を注がれました。

■ そんな上田さんが何故、
飛騨市役所に出向したのか

60歳の節目を控え、上田さんは、いずれサントリーを卒業することも視野に入れたつつ、社内公募された「地方自治体への出向」に迷わず手をあげたそうです。「自分も培ってきた現場での課題解決力が、社外でも通用するのか、会社の卒業も近づいてくる中で、試したい気持ちが強くなってい

ました。そんな矢先に、魅力的な出向ポストを創設してくれた会社には感謝しかありません」と語ってくれました。

■ 販路開拓を通じた、自律型人材
づくりに燃える上田さん

「2年の任期で自分が残せるものは何か？」上田さんは、最重要ミッションの「販路開拓・地場特産品のブランディング支援」を通じて、「市役所での自律型人材づくり」にも取り組んでいます。上田さんは続けます。「単なる販路開拓・ブランディング支援だけで終わってしまつては、せっかくここに出向した意味合いが小さいと感じました。人口減少が進む町の発展には、問題（プロブレム）を課題（タスク）に自ら変換できる自律型人材が必要です。販路開拓・ブランディング支援の現場に寄り添いながら、職員の自主性を引き出すべく、今日も職員との対話を重ねています。主人公は私ではなく、あくまでも職員なのです」。



上田俊二さん

■ これからの展望は

そして、最後に「飛騨市役所でのご縁を大切にしたいと思っています。私も販路開拓のご支援をしながら、一緒に課題を設定し、共に取り組むことで日々アップデートさせてもらっています。恵まれた自然環境、豊かな歴史や文化、農産産を育んできたこの飛騨の町で、自分自身のセカンドキャリアに繋がる新たな出会いや発見に、毎日ウキウキしています」と素敵な笑顔で語ってくれました。

池口武志(いけぐち・たけし)

一般社団法人定年後研究所 所長
1963年生まれ。1986年日本生命保険相互会社入社。現在、株式会社星和ビジネスリンク取締役常務執行役員、キャリアコンサルタント(国家資格)としても活動中。著書として『定年NEXT』『人生の頂点は定年後』がある。



一般社団法人定年後研究所
人生100年時代の中で、中高年社員のセカンドキャリアの充実に向けた調査活動を展開中。定年前後の自走人生にチャレンジする会社員と、それをサポートする企業を応援。当記事へのご意見ご感想を、ポータルサイト <https://www.teinengo-lab.or.jp>「お問い合わせ」にお寄せください。

当ページのバックナンバーは、上記サイトをご覧ください。